

各位

9月30日、教育委員会が行なわれました。

内容は、「決定に至る手続き上の問題」が、再び露呈し、かつ、それを正当化しようとする教育長、次長の答弁に強引さが目立ちました。

相手の意見や提案を押さえつけるような発言もあり残念に思いました。

今回のプリントは、次長が何度も言っていた「目指す」発言についてだけ書きました。

「義務教育学校を**目指す**」なんて、正式に誰も言っていない。  
次長が、勝手に言い出したもの。

1, はじめ、「仕切り直しの意味」を、次のように説明していた。

全員協議会(令和元年5月8日)の説明資料

教育委員会事務局は、「仕切り直しの意味」を次の2つと説明したのです。

(文章は、そのままです。)

1 番目の意味

一番の課題は、「義務教育学校にするか」ではなく「早来中学校の再建」です。

2 番目の意味

つまり、「中学校のみを建てる」のか、「老朽化する小学校も合わせて建てるのか」です。

(これを図で示し「どっち？」と選択を迫っています。)

上の文章を読み、説明を聞いた私は、「仕切り直し」ではなく、「白紙」だと思いました。説明内容が「白紙」だと思ったからです。そう思ったのは、私だけじゃなかったようでした。議会翌日の道新に「白紙」と報道されました。

上の説明で「1 番の課題は義務教育学校にするかではない」「中学校のみを建てる」のか、「小学校も合わせて建てるのか」だと二者択一を求めているじゃありませんか。

これらの説明には、「義務教育学校を目指す」という方向性は全くありません。

義務教育学校に  
ついては

「義務教育学校についての移行については、町民参画条例に則り、保護者、住民、児童生徒等の意見を聞き**議論**します。」  
と、述べています。

● 「移行」という意味

「移行」ですから、現在の早来中学校をそのまま義務教育学校に「移行」させるか。それは出来ませんね。

だから、新しい中学校（一体化した小中学校）を義務教育学校に「移行」させるか、という意味です。

● 「義務教育学校を目指す」と決めた事実はありません。

そもそも町民の間には、「町民参画条例に則り、保護者、住民、児童生徒等の意見を聞き**議論**」とて、「義務教育学校を目指す」と決めた事実はありません。

また、8月に行なわれた「意見公募」でも、「将来の早来小中学校の義務教育学校へ移行の是非」を問う「公募」ではなかったはずです。

現段階は、「目指すかどうか」の「議論」すら行なわれていません。

義務教育学校を「目指す」というのは、「議論の結果」の町民の「意志」なのです。

次長の「義務教育学校を目指す」発言は、町民を義務教育学校に誘導するための「目指す」ではないのでしょうか。

「義務教育学校を目指す」と言っているのは、教育委員会事務局だけ。町民不在です。

## 昨日の教育委員会でも、次長の「目指す」発言が多用。

その（1例）

- ※ ある教育委員から、町が7月に行なった北海道開発局と道内選出国會議員・関係省庁に行なった「早来義務教育学校建設に関する支援要請を行なったのはおかしくないか」との指摘に、次長は「義務教育学校を目指して」のことだから「問題ない」との発言。この発言は大いに問題です。

この教育委員が指摘したように、「義務教育学校」を仕切り直し(?)と言っておいて陰で「義務教育学校建設の要請文」を出すなどは、信義に反することです。